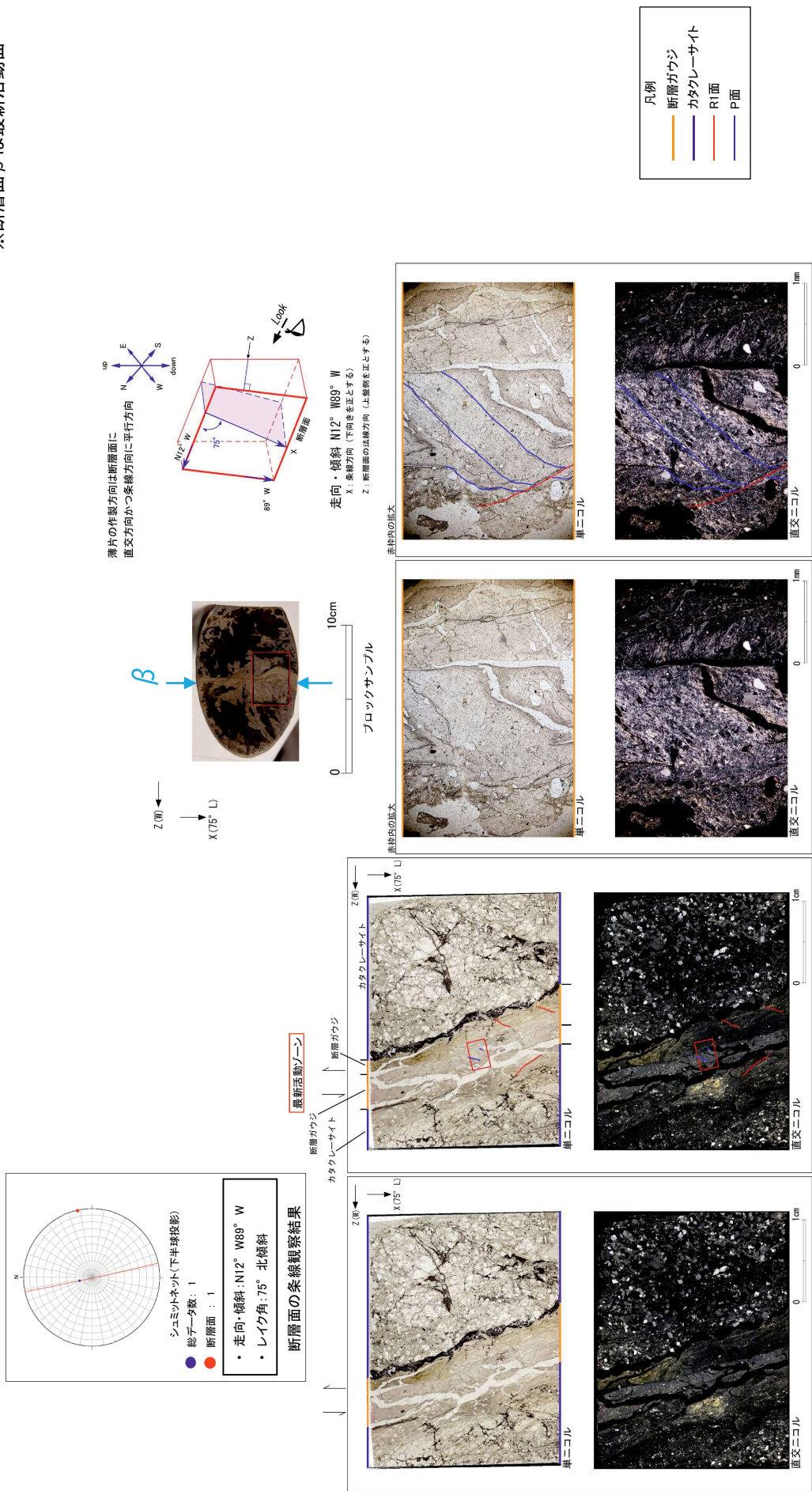


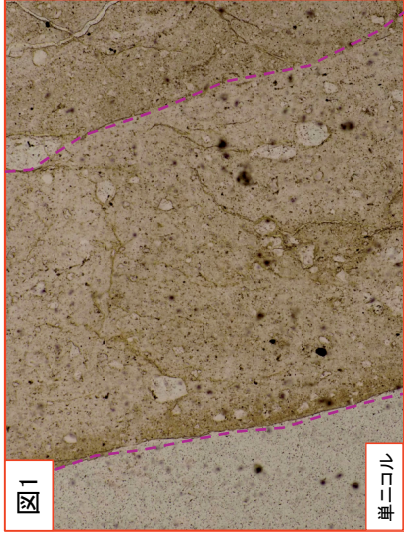
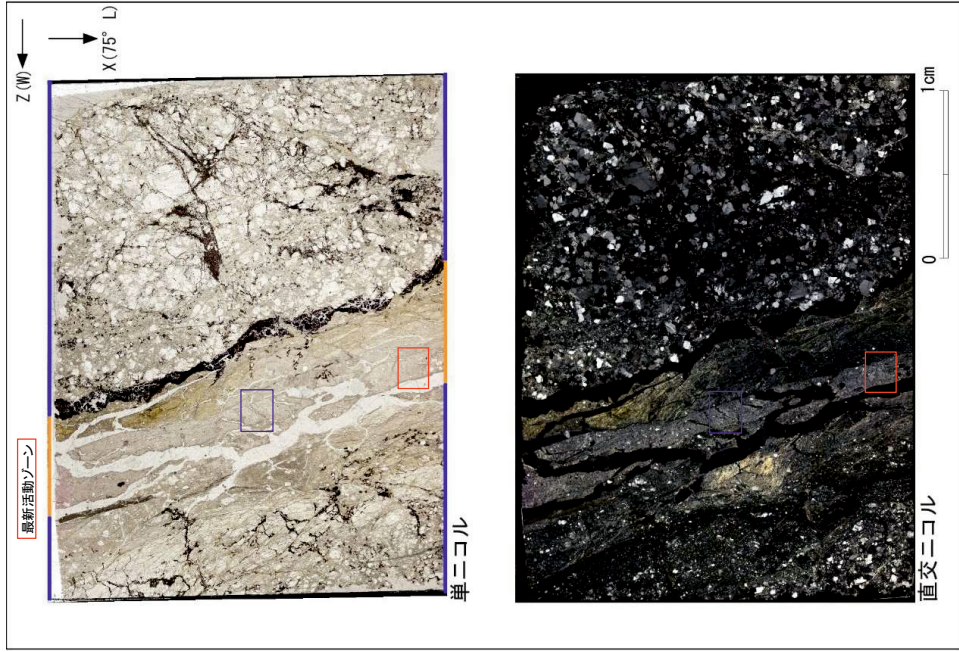
- ・H24-D1-3のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動ゾーンの変位センスは、正断層成分が卓越する。
- ・最新活動ゾーンに以下の特徴が認められることから、断層ガウジと判断した。
 - (断層ガウジ) セン断構造に伴う粘土鉱物の定向配列が認められる。
 - (断層ガウジ) 基質は粘土鉱物を主体とする。
 - (断層ガウジ) 粘土状部の分布は帯状で直線的である。
 - 岩片は少ない。
 - (断層ガウジ) 丸みを帯びている岩片が多い。
 - (断層ガウジ) レンズ状に引き延ばされた岩片が認められる。

※断層面βは最新活動面



第7.4.4.321図 (3) 破砕部性状 H24-D1-3 深度34.23~34.52m (変位センス, 薄片観察による断層岩区分(1/3))

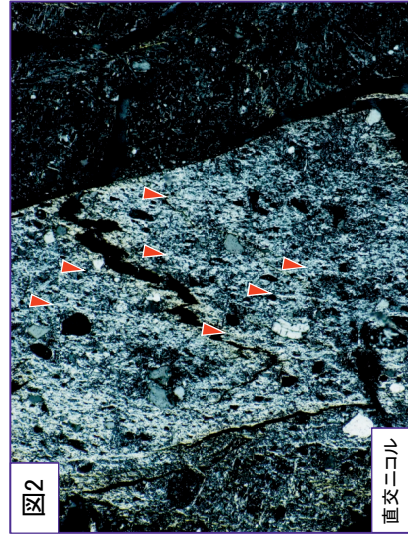
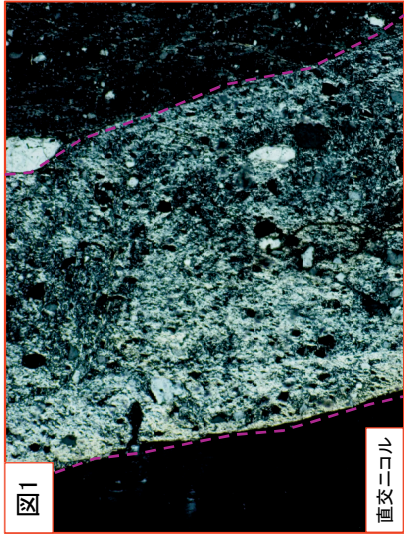
- ・最新活動ゾーンには、以下の特徴が認められる。
- せん断構造に伴う粘土鉱物の定向配列が認められる。(図2)
- 基質は粘土鉱物を主体とする。(図2)
- 粘土状部の分布は帯状で直線的である。(図1)
- 岩片は少ない。(図2)
- 丸みを帯びている岩片が多い。(図2)



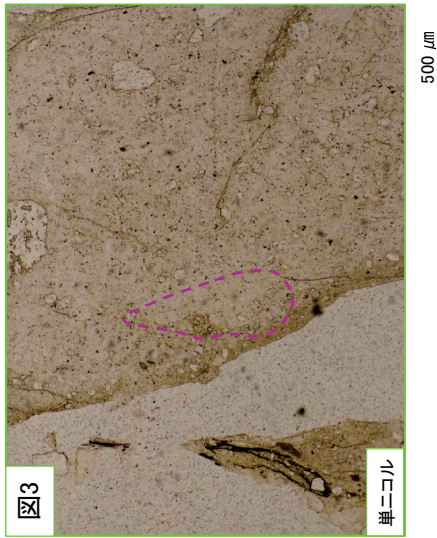
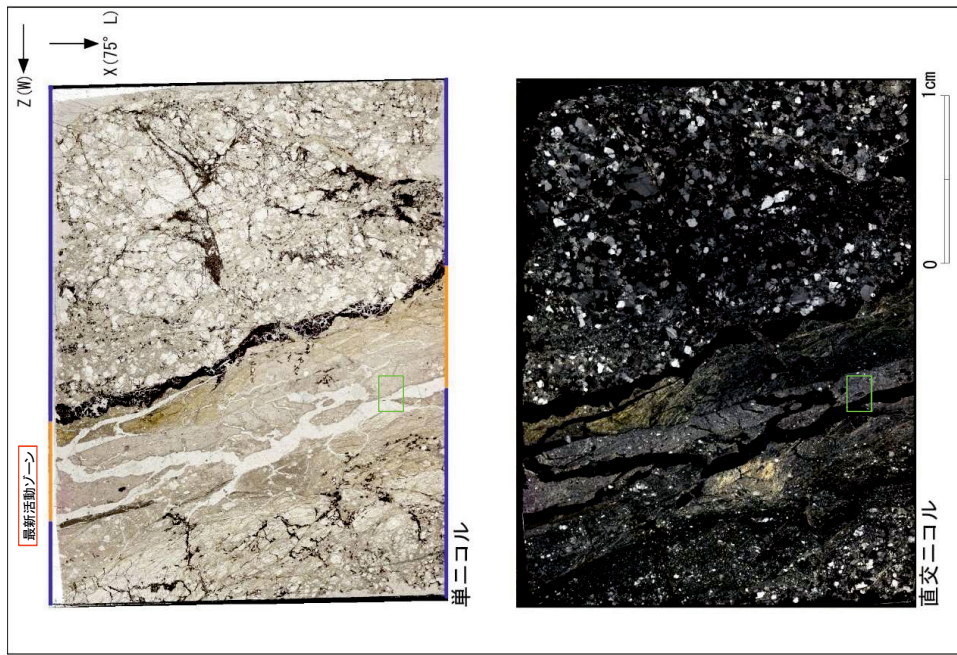
破線は帯状で直線的な粘土状部の範囲を示す



赤三角は粘土鉱物の配列方向を示す



- ・最新活動ゾーンには、以下の特徴が認められる。
- レンズ状に引き延ばされた岩片が認められる。(図3)



破線はレンズ状に引き延ばされた岩片を示す



(肉眼観察結果 深度34.40m)

- ・ 肉眼観察では、粘土状部は軟質で、細粒部の連続性及び直線性が良く、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織も認められない。これらのことから断層ガウジであると判断した。

(観察位置)

- ・ 薄片試料は、肉眼観察により認定した断層面βに沿って最も細粒化した部分を含み、人為的な試料の乱れの無い部分で作製した。

※断層面βは最新活動面

(薄片観察結果)

- ・ 薄片観察では、以下の通り断層ガウジの特徴が認められた。
 - ・ せん断構造に伴う粘土鉱物の定向配列が認められる。
 - ・ 基質は粘土鉱物を主体とする。
 - ・ 粘土状部の分布は帯状で直線的である。
 - ・ 岩片は少ない。
 - ・ 丸みを帯びている岩片が多い。
 - ・ レンズ状に引き延ばされた岩片が認められる。

- ・ 薄片観察では、カタクレーサイトの特徴が認められなかった。

以上より、薄片観察結果では、最新活動ゾーンの細粒部を断層ガウジであると判断した。



(総合評価)

当該破砕部については、以下の理由から断層ガウジであると評価した。

- ・ 肉眼観察で確認された粘土状部は、その特徴から断層ガウジであると判断した。
- ・ 薄片観察で確認された最新活動ゾーンの細粒部は、その特徴から断層ガウジであると判断した。

断層ガウジ・ 断層角礫の有無	断層ガウジ・ 断層角礫の幅[cm] *	明瞭なせん断構造・ 変形構造 *
有	0.7	有

* : 断層岩区分の総合評価で断層ガウジ・断層角礫の有無が「有」の場合は肉眼観察結果を記載。
断層岩区分の総合評価で断層ガウジ・断層角礫の有無が「無」の場合は「-」と記載して括弧内に肉眼観察結果を記載。

第7.4.4.321図 (6) 破砕部性状 H24-D1-3 深度34.23～34.52m (断層岩区分の総合評価)

- ・深度52.13mの「粘土状」と記載の箇所については、軟質で、細粒部の連続性及び直線性が良く、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織も認められない。これらのことから断層ガウジであると判断した。
- ・深度52.13～52.16mの「粘土質礫状」と記載の箇所については、やや軟質であるが、含まれる細粒部は網目状に分布し、連続性及び直線性に乏しく、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織も認められる。これらのことから変質したカタクレーサーサイトであると判断した。
- ・深度52.16～52.28mの「粘土混じり岩片状」と記載の箇所については、やや硬質で、含まれる細粒部は網目状に分布し、連続性及び直線性に乏しく、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織も認められる。これらのことから変質したカタクレーサーサイトであると判断した。

ボーリング柱状図

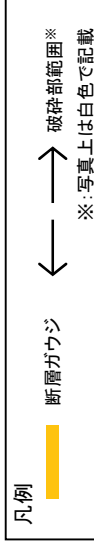
●52.13～52.28m：破砕部
 52.13m：粘土状部 (Hc-1)
 傾斜50°で幅4～5mmの軟質なにぶい
 橙色粘土で、径1mm前後の石英粒を含む。
 52.13～52.16m：粘土質礫状部 (Hb)
 上端50°で直線的にシャープに、下端46°で一部不明瞭で波打ちながら連続。径1～2mmの石英粒、径3～5mmの花崗斑岩の岩片を含む。含まれる粘土は灰白色を呈する。全体は灰褐色を呈する。幅5～20mmと膨縮する。
 52.16～52.28m：粘土混じり岩片状部 (Hj)
 上端46°、下端60°でも一部不明瞭で波打って連続。径5～10mmの粘土化～硬さ「D」ないし「E」の岩片が主体で、岩片間を軟質な灰白色粘土脈が網状に分布する。52.20m以深では、マンガニ鉱染で黒褐色化部が多いため、粘土の存否が不明な区間がある。明褐灰～黒褐色を呈する。

コア写真



52

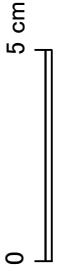
53



連続性及び直線性が良い細粒部
 細粒部が網目状に分布する



青枠部拡大



細粒部が網目状に分布する

・薄片は断層面 α 及び細粒化が進んだ範囲を含むように作製した。

※断層面 α は最新活動面

コア写真



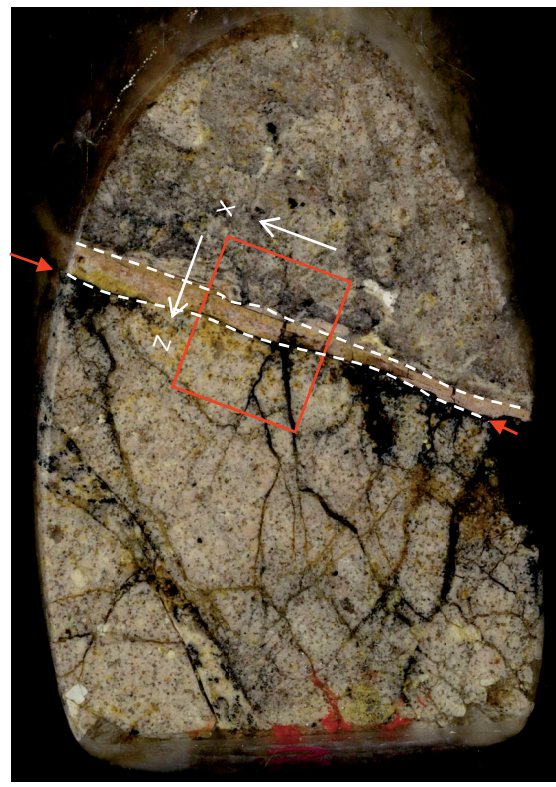
凡例

断層ガウジ → 断層面

破砕部範囲※

※:写真上は白色で記載

薄片作製位置写真



X: 糸線方向(北向きを正とする)
Z: 断層面の法線方向(上盤側を正とする)

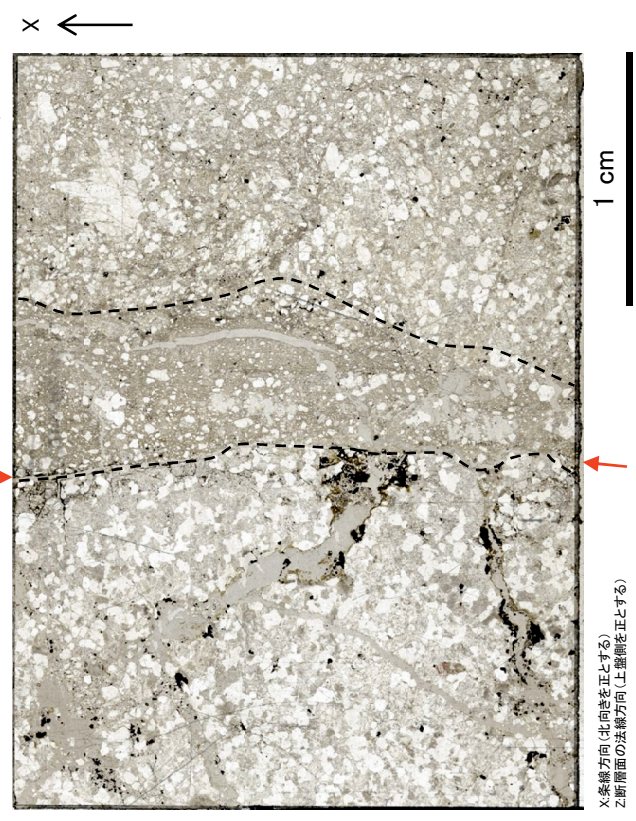
凡例

断層面

肉眼観察で相対的に細粒化が進んだ範囲※

※:写真上は白色又は黒色で記載

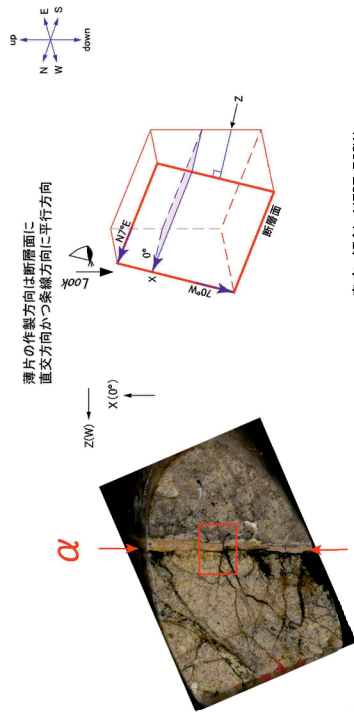
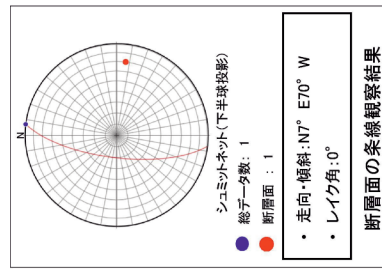
薄片全景写真(単ニコル)



X: 糸線方向(北向きを正とする)
Z: 断層面の法線方向(上盤側を正とする)

・H24-D1-3のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動ゾーンの変位センスは、右ずれ成分が卓越する。
 ・最新活動ゾーンには、断層ガウジとカタクレーサイトの特徴が認められるが、カタクレーサイトの特徴は、カタクレーサイトに取り込まれたものと考えられることから断層ガウジと判断した。
 ➢ (断層ガウジ) 基質は粘土鉱物を主体とする。
 ➢ (断層ガウジ) 粘土状態の分布は帯状で直線的である。
 ➢ 岩片は少ない。
 ➢ (カタクレーサイト) 角ばった岩片が多い。

※断層面 α は最新活動面



走向・傾斜 N7°E 70°W
 X: 集積方向(北向きを正とする)
 Y: 断層面の集積方向(上向きを正とする)

